

項目	具体的努力目標	自己評価		改善策	学校関係者評価	
		達成状況	4段階評価		4段階評価	ご意見
①豊かな心の育成	○人権学習、道徳教育、情報モラル教育の充実	○道徳科などの時数を確保し、多様な教材や手法を用いた、人権学習、道徳教育、情報モラル教育を実施した。(ローテーション道徳、校内研修の実施) ○校内人権に関する意見発表会、阿波市人権講演会、携帯安全教室、デートDV防止教室、拉致問題啓発講演会などを通して、生徒の人権意識・道徳性が高まった。9割以上の生徒が、人権学習や道徳の時間に真剣に取り組む、自分や友達の人権を大切にできていると考えている。(学校生活に関するアンケート調査より) ○インターネット(SNS)を通じてのトラブルが数件あった(生徒間・保護者間)。	A	○各種講演会やゲストティーチャーによる○○教室などを引き続き行う。 ○保護者も含めた啓発活動を行う。(講演会の案内、学校からの各種通信、生徒と保護者と共考える機会の工夫)	A	
	○生徒指導の充実	○約8割の生徒が学校にいじめ等の悩みを相談できている。しかし、約2割ができていない現状がある。 ○9割を超える生徒が、学校の規則やマナーを守れている。 ○各種関連機関(スクールカウンセラー、ライフサポーター、スクールソーシャルワーカー、県や市の相談員)との連携ができています。 ○学校に来られない生徒がいるが、その生徒に対する粘り強い支援ができています。	B	○保護者に対して、カウンセリングなどの子育て相談窓口を紹介する。 ○粘り強い支援を継続して行う。 ○教員同士の共通理解を徹底し、生徒指導に努める。 ○保護者の意見を傾聴する姿勢をもって支援を続ける。 ○スクールカウンセラー、ライフサポーター等との連携を継続して行う。 ○礼儀・あいさつなどの伝統を継承し、自尊感情を育てていく。	B	○全教職員が共通理解のもと、同一歩調で組織的に生徒指導にあたってきています。また関係機関(スクールカウンセラー、ライフサポーター、スクールソーシャルワーカー、児相・子育て支援課の相談員)と連携を密にとり、相談的活動もできています。ただ、特に不登校など複雑・多様な個々のケースの完全解決にまで至っていません。今後も引き続き、きめ細かい生徒指導をお願いします。
	○総合的な学習の時間特別活動の充実	○職業インタビューや職場体験学習などの体験的活動に主体的に取り組み、働くことの意義について考え、地域の中で生きる自分を見つめることができた。 ○六稜祭では計画・立案など、生徒が主体となった活動ができた。模擬店では、仕入れや販売を通して金融教育につなげることができた。 ○委員会・ユニバース活動・各種行事などの異学年交流により、先輩から学び後輩を思いやる気持ち、学年の壁を越えて学校や学年、自分自身をよりよくしていこうという気持ちを育むことができた。 ○校内美化に心がけていると考えている生徒が9割を越えている。(学校生活によるアンケート調査より)しかし、時間いっぱい清掃に取り組みしていない生徒もいる。	A	○時間いっぱい、清掃活動ができるように指導する。教員も生徒とともに、清掃活動をし、校内美化に努める。 ○学校行事など活動の目的や狙いを生徒にはっきりと伝える。 ○学習活動のふり返りを工夫し、適切な評価をする。	A	
②確かな学力の育成・特別支援教育の推進	○よくわかる楽しい授業の実践	○全体としては8割以上の生徒が意欲的に授業に取り組んでいる。3年生は、約95%という高い数値である。1、2年生については約2割の生徒が授業に十分な意欲が持てていないのが課題である。 ○話す、書くなどの表現力をつける活動は、保護者・生徒ともに高い評価を得ている。 ○家庭学習の習慣は、十分に身につけていない。特に2年生は、保護者・生徒ともに約4割が不十分と答えている。	B	○教材やICTの効果的な活用を工夫する。 ○教員間で共通理解を図り、適切な分量の課題を与える。 ○教科や学活等で学習指導を行い、自主学習の方法や家庭学習の方法を提示する。 ○授業や学校行事の中で、「話す」、「書く」などの活動を重視する。	A	○ほとんどの生徒が、意欲的に授業に取り組んでいるという結果から、先生方が教材を工夫し、ICTを効果的に活用するなど、わかりやすい授業を心がけ、実践できていることだと思います。家庭学習については各学年とも課題があるようですが、保護者と連携し、子どもが家庭で学習する習慣が身につくよう、さらに各家庭に働きかけをしていくしかないですね。
	○キャリア教育の充実	○8割以上の生徒が将来の進路について考えることができた。 ○各学年の発達段階に応じたキャリア教育の推進ができた。	B	○来年度より導入されるキャリアパスポートを適切に活用させる。 ○進路希望調査等を行い、家庭で進路について話し合う機会を持たせる。 ○ゲストティーチャーによる出前授業を積極的に計画する。	A	○1年生の「職業調べ・将来の夢」、2年生の「職場体験学習」、3年生の「進路選択・進路決定」と各学年の発達段階に応じたキャリア教育ができています。来年度より導入されるキャリアパスポートの活用をお願いします。
	○特別支援教育の充実	○交流学級の生徒が、支援学級の生徒に対して、優しく接することができる。 ○支援学級の授業では、どの生徒も真剣に取り組むことができています。 ○個別の指導計画を立て、それをもとに柔軟に指導ができています。	A	○将来を見据えた適切な進路指導をする。 ○教育支援計画に基づき、保護者や関係機関との連携を密にする。 ○教員間で個別の指導計画を共有し、個々の実態に応じたきめ細かい支援を行う。 ○特別な支援が必要な生徒が増加している現状をふまえ、将来をみこし、計画的に教育課程の立案や教育環境の整備を行う。	A	
③健康・安全教育・食育の推進	○健康教育の充実	○部活動に参加している生徒は、意欲的に参加している。 ○クラブチームへの参加率が増え、部活動への参加率が減っている。 ○夏休みの「健康力アップ30日作戦」の中で、自分で健康目標を立てて、8割程度の生徒が実践することができたとしている。その中では、運動をする、体力をつけるを目標にした生徒が40%いた。 ○保護者の送迎による登下校が増えている。体力向上のために、生徒自身の自転車や徒歩での登校を体育委員会活動を中心によびかけた。 ○プランニング指導を行うことで、健康な歯を保つことの大切さを知り、保健委員会の呼びかけで給食後歯磨きを92%の生徒が実践している。	A	○部活動のさらなる充実のために、部活動の数などを検討する必要がある。 ○規則正しい生活習慣を身に付け、自分の健康管理を自分で行えるよう、日頃からの指導に努めるとともに、引き続き「健康力アップ30日作戦」に取り組んでいく。また、生徒保健委員会の活動においても健康力アップにつながる活動をもっと取り入れていきたい。 ○体力向上のために、生徒自身の自転車や徒歩での登校を進める働きかけを行ったが、改善の傾向があまりみられないので、委員会活動を中心に自転車通学調査を行い、働きかけていく。体力向上のため保護者に対しての働きかけを行う。	A	
	○安全教育の充実	○通学路の危険箇所の調査結果を活用し、自転車での通行禁止マップ、総合ハザードマップを掲示した。 ○「交通マナーが守られているか」という項目では、95%以上の生徒が「あてはまる」「ややあてはまる」と回答している。 ○機会を捉えて交通安全・生命の大切さについて、伝えることができた。 ○地域・関係機関と連携し、あいさつ運動などを通して生徒の安全確保に努めている。 ○緊急時引き渡しカードの作成と、メール配信の整備を行った。 ○防災講演会を行い、自然災害に備える意識を高めた。 ○心肺蘇生法について消防署と連携し講習を1年生と教職員を対象に行っている。	A	○登下校だけでなく、休日などどんな時でも生徒に危機管理や安全の意識を持たせるような声かけや指導を継続する。 ○生徒の意識を高めるため、交通委員会などで地域の安全マップをつくる。 ○避難訓練の計画を見直し、実際の災害に対応できるような計画を検討していく。火災や不審者対応の避難訓練をしていないため、あらゆることに対応できるように様々な状況を想定して訓練を行う。 ○交通立哨指導の日を明確にして、教職員全体で取り組めるようにする。	A	
	○食育の充実	○給食センターと連携し、朝食に関するアンケートを毎年実施しているが、今年は毎日朝食を食べる生徒が8割をきった。また、体調不良を訴える生徒の中には、朝食を欠食している生徒が目立った。 ○給食に関して若干偏食があり、嫌いなメニューの残食、特に野菜を残す生徒が多い。冬場は牛乳を残す生徒が多い。 ○残食調査の結果、阿波市全体の残食量よりも阿波中学校の残食量が少ない。 ○栄養教諭と連携し、調理実習を行ったり、作った料理の栄養成分などについて講話してもらったりし、バランスよく食べることの大切さを学んだ。	B	○朝食の重要性について、栄養教諭との連携の授業を今後も行い、引き続き細かな指導を計画的に行い、家庭への働きかけも積極的に行う。野菜を摂取することでどのような効果があるのかを伝えていく。 ○放送委員会の放送を通じて、食に関する関心や感謝の心、生活習慣病の視点を踏まえた指導を行う。また、地産地消に関しても同様である。	A	○学校保健安全委員会の場でも出ましたが、阿波中学校は給食の残食量が他校と比較して少ないです。地産地消を推進する給食を残さず食べていることはよいことです。しかし、各家庭における野菜摂取量が少ないことや、生活リズムのずれによる朝食をとらない生徒が昨年度と比べて増加していることが気がかりです。食生活の改善、正しい食習慣を身につけられるよう、食育の推進をお願いします。
④開かれた学校の充実	○家庭・地域社会、関係機関との連携	○行事には、多くの保護者の参加があった。 ○家庭連絡の手段は、メールが中心となった。 ○学校だより、学年だより、月の行事予定、ホームページ等で情報の発信ができた。 ○学校と関係機関の連携事業が多くあった。 ○アンケートの結果からも、学校と家庭の連携はある程度できていると考えられる。	A	○学校新聞の目的の再考。 ○参観日等での、保護者のよりよい参加を考える。	A	
⑤研修の充実	○校内研修の工夫改善と計画的な実施	○本年度は、研究授業等で道徳関係の研修は幅広くできた。 ○学校評価の研修に全職員で取り組み、課題を話し合い、グループごとに課題を解決しようとした。 ○授業交流週間は、先生方の参加があまりなく、改善が必要である。	B	○出張等で参加した研修内容を口頭や文章で伝えたり、資料を回覧して全職員で共有する。 ○教科や学年で授業を参観しあい、意見交換する。	A	○年間の研究授業計画を立て、実施し、研修を推進してください。
⑥業務改善	○業務改善に向けた取組	○勤務時間の表をつくることで、勤務時間に対する意識が強まった。 ○部活動の練習の努力目標が、ホームページに公開された。	B	○個人で目標を設定するなど、勤務時間を意識した、業務を行う。 ○部活動の適正化に全体で取り組む。 ○学校行事の見直しをする。	B	○「働き方改革」のさらなる推進をお願いしたい。